

CSRマネジメント

事業活動のあらゆる場面で、社会的責任を果たすため、CSRの経営への組み込みを推進しています。

<http://www.maxell.co.jp/csr/index.html>

CSR活動の考え方

マクセルグループでは、CSR活動を体系的かつ継続的に行うため、グループの果たすべき使命と役割を示す「企業行動基準」を定め、「CSR活動取り組み方針」を策定することで、従業員の実践的行動を促しています。

また、「その創業の精神である“和協一致”、“仕事に魂を打ち込み”、“社会に奉仕したい”をさらに高揚させ、マクセル人としての誇りを堅持し、優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献すること」を基本理念に明記しています。

この理念の実現に向けて、「基本と正道」に則り、企業倫理と法令遵守に根ざした事業活動を展開するため、「日立マクセルグループ行動規範」を制定しています。

ガバナンス体制

マクセルでは、業務執行に対する取締役による監督と監査役による監査の二重のチェック機能を持つ取締役会・監査役会設置会社の体制を選択しております。また、社外監査役および社外取締役を選任し、独立・公正な立場から当社の業務執行を監査する体制をとることで、透明性の高いガバナンス

体制を維持できると考えております。

さらに、業務執行のさらなる効率化と責任体制の明確化を推し進めるため、2014年7月1日より執行役員制度を導入いたします。

コンプライアンス

マクセルグループでは、適正な経営体制の構築、内部統制システムの整備を進め、コンプライアンス体制の整備にも随時取り組んでいます。

2013年度は新たに、コンプライアンスマネジメント委員会を設けるとともに、CCO（チーフコンプライアンスオフィサー）を置くなど、コンプライアンス体制の強化を図りました。また、コンプライアンス講演会を実施し、社員388名が出席しました。

また、輸出管理については、輸出管理委員会体制を設置し、大量破壊兵器・通常兵器への自社製品の転用防止と関連法令遵守を目的として、正確な該非判定、厳格な用途・需要者審査（キャッチオール規制審査）に努めています。

リスクマネジメント

マクセルは、毎年、各部門でコンプライアンスの観点も含めた「リスク評価」を実施

しその結果を取締役で構成される「コンプライアンスマネジメント委員会」に報告しています。

重要項目については部門間の壁を越え、横断的な対応を行っています。

情報セキュリティ

マクセルグループでは、「情報セキュリティ方針」のもと規則・体制・安全対策の整備を推進すると同時に、社員一人ひとりの意識を高めるための教育活動にも注力しています。2013年度は、「ソーシャルメディアを利用する際の心構え」「マルウェアの脅威について」「個人情報保護の取り組みについて」等を実施しました。

また2013年4月にプライバシーマークを取得しています。

人権教育

マクセルグループは、「国際人権章典」および国際労働機関(ILO)の「労働の基本原則および権利に関する宣言」に基づき2013年9月に「日立マクセルグループ人権方針」を策定しました。

2013年度はまた、人権教育として、eラーニング「ビジネスと人権」を全従業員が受講しました。

成長戦略

◆「自動車」「住生活・インフラ」「健康・理美容」の3分野で、さらなる成長を目指します。

マクセルでは、「自動車」「住生活・インフラ」「健康・理美容」の3つの分野で、お客様のニーズにユニーク技術やグローバル事業ネットワークを活かしたソリューションで応えることで事業を拡大するという、成長戦略を掲げています。自動車分野では耐熱CR電池や車載カメラ、住生活・インフラ分野では液晶プロジェクターや建材用テープ、健康・理美容分野では健康機器など、市場の伸びが期待できる各分野それぞれで、マクセルは、自社の強みを活かした製品を展開しています。

マクセルは、これらの分野に集中的に投資していくことで、さらなる成長を目指します。



自動車

- ◆ センサー用バッテリー
- ◆ TPMSモジュール用バッテリー
- ◆ EV用電池の電極
- ◆ 車載用レンズモジュール
- ◆ LEDヘッドライト用レンズ ほか



住生活・インフラ

- ◆ インフラ用バッテリー
- ◆ 機能性部材料
- ◆ 液晶プロジェクター
- ◆ 長距離通信対応リーダライタ
- ◆ プチルテープ ほか



健康・理美容

- ◆ エステ家電
- ◆ 健康機器
- ◆ スマホ活用クラウド ほか

社会報告

全てのステークホルダーの期待に応え
共存共栄の関係を築くために、取り組みを推進しています。

お客様とともに

お客様満足(CS)の向上

マクセルグループでは、お客様から寄せられるご意見やご要望を対象とする製品の事業部門において分析し、その内容を製品やサービスに反映させることにより「お客様満足(CS)の向上」に努めています。

またCS向上の一環として、お客様ご相談センターではお客様からのご質問やご相談に迅速かつ適切に対応するために、「応答率」と「サクスコール率」を指標としてモニターしています。2013年度の応答率は71%と低下しましたが、サクスコール率は5.5%で、前年に比べて0.7ポイント向上しました。

製品責任と品質の向上

製品の絶対品質を向上させる「自工程品質保証活動」を製造工程において継続的に推進し、お客様に安心してお使いいただける製品を提供できるよう努めています。また、製品開発に当たっては製品・サービスに不具合が生じないよう設計・製造・品質保証など関係部門の総力を挙げて取り組んでいます。

2013年度において新たに公表した製品の不具合はありませんでした。

お取引先とともに

購買取引先との公平な取引

マクセルグループでは、「資材(購買)取引行動指針」を運用し、購買取引先との公平で公正な取引に努めています。また、この行動指針を会社規則にも適用し、従業員への周知徹底を図っています。

購買取引先とのCSR意識の共有に向けて

マクセルグループは、各事業部による日々の調達活動や年初の「賀詞交歓会」などを通じ、購買取引先とCSR意識を共有しています。

2014年1月に開催した賀詞交歓会では、社長より購買取引先の皆様に「CSR推進へのご協力」「基本と正道の徹底」をお願いしました。

また、海外の現地ナショナルスタッフ



WEB

WEBでも情報を開示しています。

<http://www.maxell.co.jp/csr/index.html>

へのVE(Value Engineering)実践教育を業務に活かしたVE活動をグローバルに展開しています。

CSR調達の推進

マクセルグループでは、「CSR活動取り組み方針」「日立グループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」にそって、CSR調達を推進しています。

2013年度は、製品化学物質に対する各種規制への対応、特に欧州のREACH規制における制限、物質、認可物質、SVHCへの対応を主眼とした管理対象物質の区分見直しを行い、「グリーン調達ガイドラインVer7.0」を発行、あらためて購買取引先に案内しました。

また、購買取引先にマクセルグループの環境ビジョン(「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」)に理解・賛同してもらい、購買取引先が自らの環境方針として「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」を盛り込むよう要請しました。具体的には、積極的な環境保全への取り組み、納入品に対する環境負荷低減の配慮の2点をあらためてお願いしました。



VE活動の事例展

TOPICS

日立プロジェクター 中国で7年連続シェアNo.1!

中国における日立プロジェクターのシェアが2007年から7年連続でシェアNo.1を達成し、2013年秋には中国向け累計出荷台数が、業界初となる100万台を超えました。

中国の教育市場に加え、近年はオフィスの会議室などで高輝度・高画質モデルの需要も高まっており、マクセル独自の「自由曲面光学系」を採用した超短投写モデル、防塵機能を強化し耐久性を高めたモデル、コンパクトな筐体で高輝度・高画質を実現したモデルなど豊富なラインアップで用途に合わせた提案をしています。

なお、2014年1月より中国市場向けにMaxellブランドの液晶プロジェクターの販売も開始しました。今後もパートナーとともに、中国市場でのさらなる展開を目指します。



世界初※iVDRスロット搭載 ブルーレイディスクレコーダー「アイヴィブルー」

「HDD容量を気にせず録画したい」、「録画した番組を持ち出し再生したい」、「家族一人ひとりのライブラリーを簡単に作りたい」というご要望に応えた、3つの記録媒体を用途に合わせて自由自在に使い分けできるレコーダー「アイヴィブルー」です。

内蔵ハードディスク、ブルーレイディスク、そして増やせるカセットハードディスク「iV(アイヴィ)」の3つの記録媒体を用途に合わせて自由自在に使い分けができ、自由でスマートなAVライフが実現します。

※ 2013年3月現在 ブルーレイディスクレコーダーとして(マクセル調べ)



地域・社会とともに

世界各地で地域に根ざした事業活動・社会貢献活動を展開

マクセルグループでは、CSR活動取り組み方針に「良き企業市民として、より良い社会を

実現するため、社会貢献活動を積極的に推進します」と定めています。この方針にそって、「教育・文化支援」「環境保全・美化」をテーマに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションや、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

Europe



Maxell Europe Ltd.

ハンディキャップを持つ子どもたちを支援する団体にDVD+R、CD-R、USBメモリーを提供しました。

無錫日立マクセル 有限公司

小学校で環境保護に関する授業を開催。生徒から絵を提出してもらい、その中の10枚を優秀作品に選定しました。

China



日立数字映像(中国)有限公司

ボランティア8名が、植物の光合成を顕微鏡で観察する実験を小学4年生60名に指導しました。

China



マクセル(上海) 貿易有限公司

公園の植樹活動に参加したほか、経済的支援が必要な小学生20名分の援助を行いました。

China



Malaysia



Maxell Tohshin (Malaysia) Sdn. Bhd.

第12回献血運動を開催。昨年度比24%増の107名のスタッフが献血に参加しました。

Thailand



Maxell Finetech (Thailand) Co., Ltd.

2月の万仏節(Makha Bucha)に従業員から寄付を募り、近隣のお寺を訪問して僧侶への寄贈を行いました。



PT.SLIONTEC EKADHARMA INDONESIA

近隣の街では雨季にしばしば洪水にみまわれます。水はけの悪い排水路を整備するために、支援金を寄付しました。

Indonesia

Hong Kong/China



Hitachi Maxell Global Ltd.

Maxell(Shenzhen) Trading Co., Ltd.

従業員とその家族の計16名が深圳市の海岸清掃活動を行いました。

Taiwan



台湾マクセル 有限公司

社員とその家族を対象に、台湾の観光地である墾丁淨灘海岸でのごみ拾いを行いました。



Singapore

Maxell Asia (Singapore) Pte. Ltd.

オセアニア、東南アジアから西アジア、アフリカの109カ国、約24億人が暮らす巨大市場で、日々営業、マーケティング活動を行っています。成長著しいASEAN、インドを中心に、各地域にあった商品展開を進め、マクセルブランドを浸透させていきます。

その他の社会貢献活動

- 事業所周辺や地域の清掃活動に延べ900名以上が参加(東京ビル、大阪事業所、京都事業所、小野事業所、ファインテック事業本部、スリオンテック事業本部、九州マクセル事業本部、(株)日立情報テック)
- イスラム教のモスクの外で使う、お祈り時に必要なPEシートとテープを年3回提供(インドネシア)
- 近隣の中学校・高校より社会教育実習生を受入れ(インドネシア)
- 献血活動に参加(中国、マレーシア)

- 家庭で余っている保存のきく食品や缶ジュースのプルタブなどを集め、各種団体へ寄付(アメリカ)
- グループ企業合同の海岸清掃活動に参加(香港)
- パトミントンコート2面の寄付、日立教育金を付与(日立数字映像(中国)有限公司)

社外からの評価

- (株)BCN主催「BCN AWARD 2014」DVDメディア部門で受賞

- (株)音元出版「ビジュアルグランプリ2014」でインナーイヤー型ヘッドホンとTVサラウンドスピーカーが受賞
- (株)音元出版「ビジュアルグランプリ2013 SUMMER」でiVハードディスクレコーダー、インナーイヤー型ヘッドホン、Bluetoothスピーカーおよび録画用ブルーレイディスクが受賞
- 無錫市環境保護局から「緑色企業」として12年連続表彰(Wuxi Hitachi Maxell Co.,Ltd. 中国無錫工場)

従業員とともに

労働安全衛生活動

マクセルでは、「労働安全衛生基本方針」のもと、労働安全衛生活動を展開しています。

2013年度は、「日立マクセル安全衛生委員会」が推進役となって、安全衛生活動の維持向上に努めるとともにOSHMS※1に準じたマネジメントシステムの構築を進めました。

また、2012年度に引き続き、国内各事業所の「安全衛生委員会」が推進役として、安全衛生の向上に努めました。

※1 Occupational Safety and Health Management System 中央労働災害防止協会が認定する労働安全衛生マネジメントシステム

メンタルヘルス活動の強化

マクセルでは、EAP※2を通じて、社員が抱えるさまざまな悩みについて、外部相談窓口のカウンセリングを通して解決を図っています。

さらに、2013年度はライン(職長)ケア研修を行い、部下の日々の変化に注意することで問題の早期発見につなげるようにしました。

※2 Employee Assistance Program 従業員支援プログラム

働きやすい職場づくり

マクセルでは、2013年度も企業活動の向上と活性化を目的として、従業員の意識調査を実施しました。その結果をうけて、グローバル人財強化への取り組みや職場コミュニケー

ション促進などの施策を推進しています。

ダイバーシティマネジメント推進

マクセルでは、ダイバーシティ(多様な人材の活用)を経営戦略および事業戦略に組み込み、異なる価値観・感性・経験を有する人材を活かすことで組織の問題解決力、創造性、柔軟性の向上を目指しています。

本年度から女性活躍推進プロジェクトを発足させ、女性の就業継続やキャリアアップにも力を入れています。

なお、2013年度の障がい者雇用率は、2.02%、定年退職者の再雇用数は51名でした。

環境報告

地球環境と事業活動を持続的なものにするため環境への負荷を低減する取り組みを推進しています。

環境マインド& グローバル環境経営

取り組みのポイント

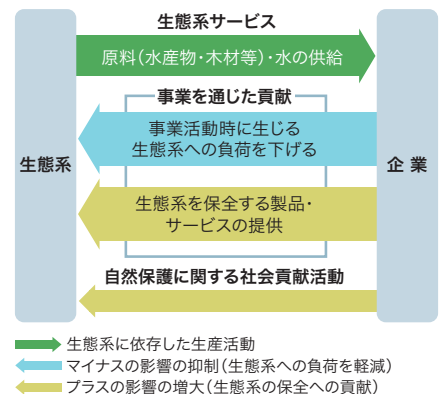
マクセルグループでは、日本経団連が定めた地球環境憲章を支持し、「企業行動基準」に基づいて、「環境保護行動指針」を策定しています。また、2009年度から「日本経団連生物多様性宣言」の趣旨に賛同し、同宣言の「推進パートナーズ」に参加しています。

また、環境管理体制としては、国内7地区で

2008年に統合認証を取得し、2013年度は経営拡大で取り込んだ光エレクトロニクス事業本部と(株)日立情報テックも加え環境活動を展開しています。

2013年度は、環境関連の事故・罰金・苦情はありませんでした。さらに、昨今の最新の法規制への対応、特に欧州「REACH規則」における制限物質・認可物質およびSVHC※1への対応を主眼において、化学物質管理基準書を見直しました。

生態系と企業のかかわり



2013年度の環境行動目標と実績

カテゴリー	項目	2013年度目標	2013年度結果	自己評価
環境マインド& グローバル環境経営	環境リテラシー(活用能力)の醸成	エコマインド教育(e-ラーニング)の受講推進	100%受講	🌿🌿
次世代製品とサービスの提供	環境CSRモノづくりの推進	REACH規則対応	含有成分調査の実施	🌿🌿
	エコプロダクツの推進	環境適合製品の拡大 売上高比率※2 86%	88%	🌿🌿
環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス	地球温暖化防止	CO ₂ 排出量削減(国内) 40%削減(1990年度比)	53%削減	🌿🌿
		エネルギー使用量原単位改善率※3 29.4%以上(国内)(海外)(2005年度比)	23.2%改善	🌿
	資源の有効利用	廃棄物有価物発生量原単位改善率※3 42.0%以上(国内)(海外)(2005年度比)	44.0%改善	🌿🌿
	化学物質管理	VOC※4大気排出量原単位改善率※3 25.9%以上(国内)(海外)(2006年度比)	31.7%改善	🌿🌿

※1 Substances of Very High Concern(高懸念物質)

※2 売上高比率=(環境適合製品売上高)/(マクセルグループの全売上高)

※3 基準年に対する原単位(負荷量/活動量)の改善割合を負荷比率で加重平均した数値

※4 Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物の略で、トルエンやメチルエチルケトンなどの揮発性を有し大気中で気体状となる有機化合物の総称)

[評価基準] 🌿🌿:達成 🌿:一部達成